



広重版画より 三島 朝霧

第2381回例会

2024.3.28晴

司会

小塚英樹君

ロータリーソング

「ROTARY」
指揮 遠藤眞道君

会長挨拶

会長エレクト 鈴木正二君

三島西RCは副会長が次年度会長ですが各クラブ異なっています。翌年会長になる方のことを会長エレクトと呼びます。ロータリークラブの年度は7月から6月ですが、大体半年過ぎると会長と幹事は任期が終わったような言動になりなぜかわかりませんでした。今年度会長エレクトになってすぐ8月に静岡で「ロータリー財団セミナー」を受講するように言われました。10月浜松で「地区大会」11月Zoomで「PRE-PET」翌日「RLIパートII」と続き疲れました。年が明けて1月「同パートIII」3月「同パートI」(順番自由です)。Rotary Leadership Instituteの略でいろいろのことを学びます。学ぶだけでなく6~7人のグループで、ファシリテーターが参加者に発言を促し気づかせてくれます。Zoomで1日に50分のセッションを6時限です。3月10日にはよく聞く「PETS」で甲府へ行きました。ここでPETSとは何の略ですかと素朴な質問をしてきました、President-Erect Training Seminarとのことです。このスケジュールのために苗栗には行けませんでした。3月22日夕方Zoomで「地区補助金管理セミナー」があり、立て続けに学びを続けました。更に4月以降もZoomであったリアルであったりですが毎月研修があります。ここで気が付いたのは次年度会長・幹事はこんなにも早くからいろいろなことを学ぶのかという事です。だから研修から1年くらいで肩の荷が下りるという事が理解できました。もう一つ、その内容が一般会員でも学んでいるとロータリー活動に非常に役立つことであるという事でした。それが私は15年いてもほとんど知る機会がなかったことにも驚きました。これからは新年度になる前に皆さんの協力を得て計画書をまとめなければなりません、ぜひロータリーについて学ぶことを増やしていきたいと思えます。ここに書いた研修は全て幹事予定者の加藤さんも同時に受けたことを付け加えておきます。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 山本孝介さん(木村君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メ ッ ク ク	修 出 席 正 率
前々回	33/48	68.75%	43/48	89.58%
今回	40/50	80.00%	会員総数	53名

欠席者 赤池君、秋元君、須田君、諏訪部君、千葉君、橋本君、前田(房)君、増田君、森崎君、渡邊君

スマイルボックス

- ◆鈴木(正)君、明治大学マンドリン倶楽部定期演奏会の時期になりました。4月27日(土)沼津文化センターで開催されます。チケットは私が持っています。御協力をお願いします。パンフレット広告にご協賛いただいた7名の方は後日パンフレットと共に2枚進呈致します。テーブルにチラシを置きました。
- ◆清水君、本日卓話です。よろしく願いいたします。バッジ忘れられました。
- ◆岩崎君、三島支店の窓口で悪徳商法業者への支払いを未然防止したことで三島警察署から表彰状をいただきました。あいかわらず詐欺が多いです。皆様ご注意ください。
- ◆伊丹君、佐野美術館の庭園内で100年物のしだれ桜が開花しました。夜間はライトアップしてまして最高です!
- ◆ゴルフ同好会、第6回平出年度ゴルフコンペを3月17日(日)函南ゴルフ倶楽部にて開催しました。優勝 川名さん、準優勝 小塚英樹さん、3位 西川さんでした。次回第7回は、4月21日(日)中伊豆グリーンにて開催します。

幹事報告

副幹事 加藤憲勝君

- 1.本日例会の卓話は清水英治君です。よろしく願いいたします。
- 2.次回例会は、4月4日(木)12:30呉竹 小塚英樹君の卓話です。

卓 話

僕の人生と仕事

清水英治君

皆さん、こんにちは、清水です。本日は初めて卓話をさせていただく機会をいただき、皆さんと僕の人生と仕事についてお話をさせていただきます、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、話を始める前にお伝えしたいのは、私の人生は、幼少期からの経験や家族の影響、そして学び舎や職場での出会いによって豊かに育まれてきたということです。人生の中の喜びや苦しみ、挫折や成功、このすべてが私を形作ってきたと思っています。私は富士市で生まれ育ち、中学校までを富士市で過ごし、高校からは清水町へ移住しました。当時父親の転勤もありましたが、家族の間では国や地域を超えた多様な文化が受け継がれてきました。中学生時代は柔道部に所属して、中体連優勝した実績があります。本当に柔道を愛していた時代でありました、ここでオリンピックを目指そうと決めました。部活が終わって家に帰ると一人でお米を5合食べて、キッチンにマイ炊飯器が置いてあったくらいでした、相当な量を食べたのでかなりの家計の負担だったと思います。あと余談ですが、当時2個下の後輩で今では有名ですが、2012年 ロンドンオリンピックの銅メダリスト西山選手がいました、今でも仲良く月に一回程度の会食をする仲間でもあります。中学時代は体力テストでいつもベスト3に入っていて、体力には自信があった時代でした。勉強は凄くする方ではありませんでしたが、それでも成績はいつも平均以上程度の学力でした。あとこれは言っていないかどうか迷いますが、僕は群れるのは好きではなかったです、組織の中にいることが苦手でした。私はいじめっ子でもなれず、いじめられっ子でもなく、逆にいじめられっ子が私に「今日先輩に呼ばれたから守ってください」と言われる存在でした、その際を守るから1000円ちょうだいと言ってたような気がします。高校時代は沼津の高校に入学しまして、同じく柔道部に所属しましたが高校一年生の一学期に首を痛めて、柔道が出来なくなりました。私は当時柔道でオリンピックを目指すという夢を諦めざるをえなくなり、精神的にキツイ時期となりました、かなりの挫折感を感じて何を目指したらよいかわからなくなりました。ただ、当時からクヨクヨ悩むタイプではなかったのも、スポーツができないのであれば、自立する方法を考え始めて、アルバイトをしようとして、土日は建設現場の材料搬入のアルバイトを始めて、平日は夜はガリンスタンドでアルバイトをしました、勉強も中学校時代と考え方が変わって、真剣に勉強したら学力が一気に上がり成績も学年でベスト5に入る時代となりました。ただ、それでもやりたいこと、自分がやりたい姿は高校3年生になるまで見えませんでした。そこで3年生の2学期あたりだったと思うのですが、テレビで猿岩石がヒッチハイクの旅のような番組を見て、すごく刺激を受けた記憶があります。そこで海外に行くことと決めて、両親に相談した結果、最初は反対されたが、1ヶ月間説得を頑張った結果、賛成してくれました、ただし大学に行かないのであれば条件としてはお金は一切出さない、いま現在のアルバイトでお金を貯めて自分の力でやって来いという条件でした。

高校卒業後、進学することなくバックパッカーとして世界48カ国を旅し、様々なアルバイトをしながら自己を成長させました。その経験が私にとって語学力を身につける貴重な機会となりました。バックパッカー時代はチケット代と別で所持金18万円でお金を出発して、東南アジア～中東～アフリカ～中南米～南米～北アメリカ～アフリカ～ヨーロッパ

という順で回ったのですが、ヒッチハイクが7割、公共交通期間2割、自転車等が1割程度の移動手段でした。生活をするためにアルバイトは主に2種類経験しました、一つはレストランでのアルバイトです、給与は最低賃金以下でしたが、私が狙っていたのはお腹いっぱい食べるをターゲットとしていたのでよかったこと、チップは給与以上だったのが魅力的でした、ここでお客さんを満足させれば付加価値としてチップを貰えることがわかりました。2つ目は街角の靴磨きです、これは本当にやってよかったと思う理由は場所を選ばない、かつヒッチハイクで旅をしているダンボールに書いてあったことで、次の目的地へ無料で行ける手段を掴むことができた点です。バックパッカー時代は自立するための精神を整えることができて、本当に経験してよかったとおもいます、ちなみに帰国をした際は所持金18万だったので、2年間の生活は現地で調達出来て達成感がすごかったという記憶があります。

20歳になる直前に帰国し、現在の株式会社富士テクニカ宮津へ入社しました。ここでは、語学力を活かして海外ユーザーや外国人労働者の管理業務に携わりました。リーマンショックで希望退職者の募集がなかったところ、手を上げさせて頂きまして、日本では六法というものがあって、富士テクニカさんで海外取引、外国人労働者管理という経験をした時ご知見が欲しいと思い、大原専門学校で公務員コースに入学しました。専門学校時代に国家公務員2種を目指して勉強して、無事に試験を合格しましてそ厚生労働省の静岡労働局採用の安定課へ入庁し、様々な国家事務に従事しました。その間に、国家公務員としての基礎知識やスキルを身につけました。国家公務員を退職後、退職理由が「やりたいようにやれない」という部分が大きかったです、株式会社BRICSを設立し、代表取締役として現在まで勤めています。現在は2期目となり、BRICSでは、事業部制の特色を活かし、モノづくり現場をサポートしています。機械加工やエンジニアリング、人材派遣など、モノづくり現場にヒト、カネ、モノをトータル的に供給できる体制を構築しようとしていますので幅広い事業に携わっています。

私の多言語力は、家庭環境やバックパッカー時代の経験によるものです。これを活かし、経営する会社以外にも、学校法人国際こども学院グループの理事や、静岡県警察の通訳人として地域の外国籍の事件・事故の未然防止活動に貢献しています。仕事は私にとって、自己実現や社会貢献の場でもあります。多くの人々との出会いや共に成長する喜びを感じています。しかし、生活と仕事のバランスを保つことは容易ではありません。時には、家族や地域活動との時間が犠牲になることもあります。そのような時こそ、自己と向き合い、何が本当に大切なのかを見つめ直すことが重要です。生活と仕事、家族との時間、地域活動をバランスよく両立させるためには、自己の理念や価値観を大切に、周囲とのコミュニケーションを大切にすることが必要です。幼少期から今まで親に教えて頂いた事は、どんなことでも傷をつかない心と、諦めない勇気の背中を見ながら育ちまして、成功するまで何度失敗しても、尽きることのない情熱を伝えていくことです。

今の考え方はとにかく、固定概念を捨てて新しい価値観・イノベーションを生み出すというところにフォーカスして、希望を持って目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝と共に眠るという生き方をしています。

以上が、私の人生と仕事についてのお話でした。ありがとうございました。

(週報担当:町野 暉)